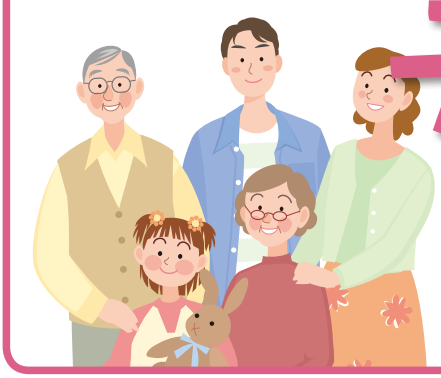


笑顔のひろば

vol. 40
2018年　春号
川崎協同病院
広報誌
http://www.kawasaki-kyodo.jp

透析患者の無料送迎をはじめて1年

ワゴン車で朝７時半から川崎区内を巡回

私たちががんばっています

川崎協同病院血液浄化センター（透析室）では、昨年７月から透析患者の無料送迎をはじめました。現在午前中の透析患者に限りますが、17 人が利用し「雨の日は助かります」などと好評です。今後は送迎を午後に拡大することを検討しています。

透析患者は全国に約 32 万 9000 人（2016 年末）、神奈川県内には約２万人 (同年末) います。透析を受けるようになる原因疾患としては、糖尿病性腎症が一番多くなっています。

20 代から 90 代まで 75 人が利用

川崎協同病院の６階にある透析室には、22 床のベッドがあり、月曜日から土曜日まで透析患者を受け入れています。重症者は３階病棟で透析ができるようになっています。現在約 75 人が週２回から３回の透析治療を受けていますが、祝日や年末年始、お正月も透析は休みがありませんし、雪や台風など天候が悪い時も休めません。

透析は、外来通院が基本ですが外来患者が入院した時や地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟、ショートステイなどに入院中の透析患者も受け入れています。年に数回、地方から川崎に旅行に来る透析患者の受け入れもしています。年齢は、20 代から 90 代までと幅広く透析歴 39 年の人もいます。

当院は日中仕事をしている人を中心に夜間の透析も行っています。基本的に自立し、透析中の血圧などが安定している患者がその対象です。スタッフは医師を中心に、看護師、臨床工学技士が、つねに安全な透析ができるよう見守っています。

到着後は透析室まで案内

高齢の透析患者も多く、通院の手助けのために昨年７月から車での無料透析送迎を開始しました。まだ午前中だけですが、17 人が利用しています。送迎車は朝７時半ごろ病院を出発し川崎区内を回ります。

当院の送迎は自宅近くの道路までなので、自宅から送迎場所までは家族やヘルパーの力を借りて乗車している患者もいます。病院に着いてからは送迎ドライバーが６階透析室まで案内します。

朝は順次送迎していますが、透析後は定時運行になるので、透析後薬局に薬を取りに行ったり、買い物をしたりしてから時間に合わせて乗車している患者もいます。利用中の患者からは「雨の日も雪の日も来てくれるから助かります」、「透析に来るのが楽になったよ」などの声が聞かれます。

多くの患者が無料送迎を利用したいと願っているため、今後は「午後透析」の患者の無料送迎もできるように検討しています。

月・水・金 開始時間：午前透析　8:50 ～
中間透析 13:00 ～（数名）
夜間透析 17:00 ～
火・木・土 開始時間：午前透析　8:50 ～
午後透析 14:25 ～

川崎協同病院　血液浄化センター看護師長　白井 千春

車イスリフトにて降車中

NEW FACE

23人が新たなスタッフとして協同病院に 医療福祉生協や民医連について学び、スタート

新年度を迎え、川崎協同病院では、医師4人をはじめ、看護師10人、薬剤師1人、放射線技師1人、ソーシャルワーカー1人、理学療法士3人、作業療法士2人、事務1人の合計23人の新職員を迎え入れました。

4月2日からは、医師を含めた全職種が参加する合同新入職員研修を受け、同期の職員同士交流を深めながら、組織で働くものとしての心構えを学びました。

医師4人が目指す世界とは

23人のうち医師は、津田誠（つだ　まこと）、熊谷栄太（くまがい　えいた）、土金清香（つちかね　さやか）、高井凜（たかい　いさむ）の4人です。医師として仕事をはじめるにあたって、①なぜこの病院を選んだのか②将来プロとして何を目指すのか③今後仕事以外でチャレンジしてみたいこと④その他アピールすることについて、次のように話しています。

津田（東京都江戸川区出身、北里大学卒）

①病院見学の際に見た、先輩医師の方々やコメディカルの方々のやる気と活気に満ち溢れた表情や姿勢に惹かれました。地域の人びとの笑顔のために粉骨砕身の姿勢で臨む姿こそ、自分が医師として必要なものであると感じたため当院での初期研修を決心しました。

②患者さんの訴えの向こう側に隠れている背景や感情を読み取れるような医師になりたい。患者さんに「思わずしゃべりすぎてしまった」と思われるほど親身な接し方ができるよう学んでいきたい。

③もともとジャズをよく聴くので、研修期間中に時間を見つけてジャズを演奏できたらと思います。また、ゴルフも始めてみたい。

④よく食べ、よく飲み、よく笑うということを忘れないようにしつつ、健康にも気を使っていきたい。

熊谷（神奈川県横浜市出身、横浜市立大学卒）

①初めて病院見学に来た時に、担当して下さった研修医の先生が患者さんの悪口を言わない方だったのですが、そのスタンスに感銘を受けたことがきっかけでした。

②患者さんの病態、心情、環境面など、すべてに目を向けることのできる人間になりたい。

病理医を目指していますが、こちらで得られる視点を大切にしたいと思っています。

③ギターとベースを弾くのが好きなので、細々続けていきたい。

④笑顔が引きつっていることが多いですが、普通の笑顔です。

左から津田、土金、高井、熊谷

土金（兵庫県明石市出身、滋賀医科大学卒）

①医師を目指したのは人の役に立てる仕事をしたいからでしたが、それが民医連の病院では実現できると思いました。病院見学の際、スタッフ全員が一丸となって患者さんのために働いているという事を実感できました。

②どのような経験も成長のチャンスととらえ、常に勉強して成長していける医師を目指します。

③最高のだし巻き卵を美しい形で作れるようになりたい。（いつも形が崩れたり、破れたりすることが悩みです）

④医師としてのスタートラインで、わからないことや失敗ばかりだと思いますが、一生懸命に頑張ります。

高井（石川県珠洲市出身、富山大学卒）

①病院見学時に、医局の先生方が医学生である私を家族のように迎えて下さったこと、ご指導いただいた先生が「医療者だけでなく、患者さんや見学に来た君もリスペクトしている」とおっしゃって下さり、こうした人間味あふれる環境で成長していきたいと思ったからです。

②自分が大きな事故に遭った経験から、どんな立場や背景の人もリスペクトし、気持ちに寄り添えるようになりたい。様々な職種の人達と共に考え、悩み続け、納得のいく方向に導けるような医師になることが目標です。

③仕事が始まって、お休みしていた料理を再開させたい。忙しいと食事がぞんざいになりがちなので、健康に気をつかって和食料理を作れるようになりたい。

④私自身、障害をもっているので、患者さんの苦しみや悩みに共感できることが有ると思っています。患者さんが元気になるよう、笑顔になるように、一生懸命頑張ります。

和田医師による医療倫理の講義に聞き入る職員

TOPICS
トピックス

新たに「皮膚プリック試験」を導入
痛み少ないアレルギー検査が可能に

専用の針を押付けます

小さな子どもの肌は敏感で、ちょっとしたことで発疹が生じます。時には食物アレルギーが原因の場合もあり、こうなると家族の心配は尽きません。当院にも、離乳食の時期や入園前など、食物アレルギーの相談に来られる人が大勢います。

このほど、川崎協同病院では、アレルギーの検査として「皮膚プリック試験」を導入しました。

「皮膚プリック試験」は、皮膚の反応を通じてアレルギーが成立しているか調べます。その方法は、まず、アレルギーの原因かどうか疑わしいものを溶かした液を皮膚にたらし、その上から専用の針で軽く皮膚を押しつけます。

15 分後にじんましんが形成されていれば、アレルギーの可能性があると判定されます。この検査の長所は、痛みがほとんどなく出血もないこと、その日のうちに結果が分かることです。また、乳幼児は血液の抗体検査より感度が優れているため、小さいお子さんでも有用です。ただし、重症アレルギーでは全身反応が誘発されることがあります。

当院では、三大食物アレルゲンである卵白、牛乳、小麦に対して検査をすることができます。その他のものについては、検査できる場合もありますので、事前に相談ください。

川崎協同病院　小児科医師　能城（のぎ） 一矢（かずや）

あくしょん action

障害、病気の悩みを話し合える場として
「すばるの会」- 高次脳機能障害・家族会が交流会

「高次脳機能障害」とは何かご存知でしょうか？　脳卒中や頭への外傷が原因で、言語や記憶や注意など脳機能に障害が起こるものです。

しかし、身体の麻痺がない場合もあり、外見上分かりにくい上に自覚もしにくいため周囲に理解されにくい病気です。また、理解されにくいため当事者の社会参加の場も少ないのが現状です。

そんな当事者や家族を対象に日常生活の悩みや変化などを話し合える場として 2015 年川崎協同病院内に「すばるの会」が発足しました。以来会合などを重ね、2018 年 3 月 22 日に第 11 回の会合が開催しました。

みんなそろってハイチーズ

コーヒーを飲みながら楽しく交流

20 人が参加した第 11 回の会合は、当初川崎市川崎区の桜川公園で花見を予定していましたが悪天候のため、病院でお茶会（交流会）を行いました。初めての外出企画で、みなさん楽しみにしていたのでとても残念でしたが、ボランティアがおいしいコーヒーを淹れてくれ、充実した交流会となりました。

交流会には現在入院中の人も参加していたため、入院している本人やその家族が、すでに退院した人から退院後の生活などについて話が聞けて参考になることもありました。今後も色々な企画を行うことで、当事者にとってはよい刺激になることが期待されます。川崎協同病院 1 階の地域連携室前や 2 階病棟には、「すばるの会」が今まで発行したおたよりを掲示してあります。

川崎協同病院 リハビリテーション科作業療法士　山岸 直子

地域の願いで開設してから20年 京町診療所

家族ぐるみで受診できるアットホームな診療所

無料シャトルバスと緑の看板が目印の京町診療所

1998 年 3 月 1 日の開設から丸 20 年が経った京町診療所は、川崎区の南部で横浜市鶴見区に接する京町地区に位置しています。JR 南武線浜川崎支線川崎新町駅から徒歩で約 9 分、あるいは「京町循環」バスを利用すれば京町停留所で下車してすぐのところです。

当診療所は、京町地区、小田地区に住む医療生協組合員をはじめ地域住民の切なる願いを受けて地域密着型の診療所として開設しました。診療所の建設にあたっては、企画の段階から地域の医療生協組合員理事が、医療生協スタッフと共に携わってきました。

診療所の初代所長には、整形外科医の堀内静夫医師が着任し、内科、小児科、整形外科の診療に加え、訪問診療も実施、そのほかにデイケア、リハビリテーション、訪問看護（併設）、訪問リハ、在宅支援センターの機能がある多機能診療所となりました。

病気だけでなく患者を診ることを大切に

現在は、内科、小児科、整形外科の診療を行い、1 日に約 70 人の患者が受診します。また、このほかに 70 件前後の訪問診療を行っています。現在の所長は、2009 年より着任した倉田眞行医師で専門は呼吸器内科です。かつて公害問題に悩まされた川崎では、今でも気管支喘息に悩む人がいて、京町診療所でも受診しています。

小児科、整形外科は非常勤の医師ですが、それぞれの専門の医師が診療をおこなっています。常勤スタッフは、所長のほか、鼻田妙子看護師長はじめ４人の看護スタッフと、田中忠雄事務長のほか３人の事務職員がいます。この他、非常勤スタッフとして、看護師、事務職員、訪問診療時や、川崎協同病院と診療所間のシャトルバスのドライバーがいます。

倉田所長は、「病気やけがなどのデータだけをみるのではなく、問診・聴診などで一人ひとりの顔を見て治療することを大切に診療し、『いつまでも元気で過ごしていただく』ことをモットーに、スタッフとともに地域に根ざしたよりよい診療を行いたい」と話します。

壁紙を張り替え明るくなりました

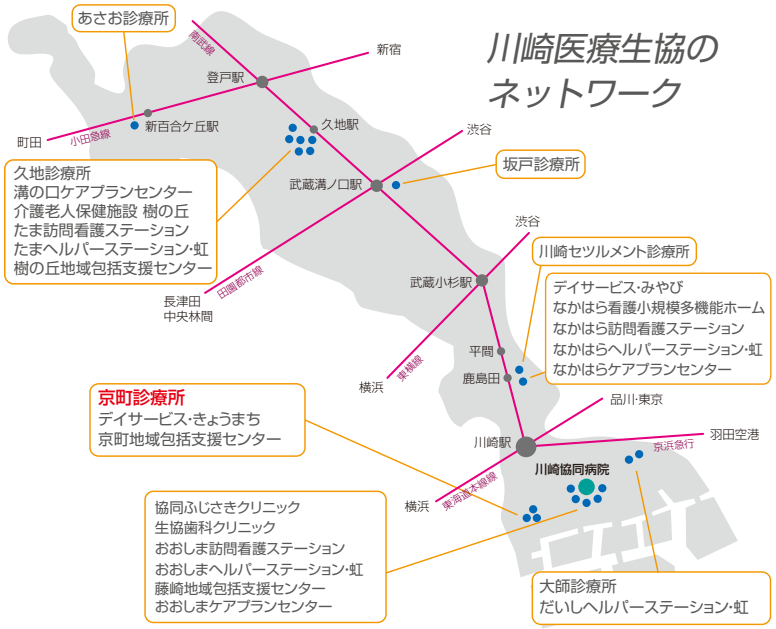
かつて川崎市としては初となる医療機関併設型として、川崎市から委託を受けていた「在宅介護支援センター」は、今でも同じ建物内に「京町地域包括支援センター」として続いています。また、デイケア・リハビリテーションはなくなってしまいましたが、隣接地に「デイサービス・きょうまち」を開設しています。

昨年 2017 年 12 月には、無料低額診療制度を利用できる診療所として申請し認可されました。

プチ・リニューアルで明るくなった待合

20 年目の 2018 年 2 月、診療所の待合ブースを改装、壁紙を張り替え、テレビを設置しました。待合全体が明るくなりました。

川崎医療生活協同組合　京町診療所
〒 210-0848
神奈川県川崎市川崎区京町 2-15-6 神和ビル
TEL　044-333-9516



笑顔のひろば
vol.40　春号
発行：2018 年 4 月 30 日　川崎協同病院地域連携室
川崎市川崎区桜本 2-1-5　TEL:044-299-4781（代）　FAX:044-299-4788　http://www.kawasaki-kyodo.jp